

特集2
ライフ
サイエンス
LIFE SCIENCE



オリセツト®ネット

熱帯感染症の被害低減に向けて取り組む

世界では熱帯地域を中心に、毎年約65万人の人々がマラリアで命を落としています。この状況を改善させるため、住友化学は防虫剤処理蚊帳「オリセツト®ネット」の開発と普及に力を注いでいます。

「オリセツト®ネット」の開発と普及

住友化学の「オリセツト®ネット」は、防虫剤を練り込んだ糸で織られた蚊帳で、マラリアを媒介する蚊から経済的・効果的に身を守ることができます。2001年に世界保健機関（WHO）から世界で初めて「長期残効型蚊帳」として承認されて以降、WHOのほかユニセフなどの国際機関が当社から購入し、アフリカを中心とする世界80カ国以上において、特に妊産婦や死亡率の高い子どもを守ることを目的に、各家庭へ無償供与するという形で普及が進んでいます。さらに2011年からは、ケニアを皮切りに、スーパーマーケットといった一般の流通チャネルを通じて「オリセツト®クラシック」の商品名での販売も行っています。

また、近年、防虫剤に抵抗性を持つ蚊の発生が確認されていることから、「オリセツト®プラス」「オリセツト®

デュオ」といった次世代蚊帳の開発を進めてきました。既にオリセツト®プラスはWHOから長期残効型蚊帳としての承認を取得済みであり、オリセツト®デュオも承認を取得次第、販売を開始する予定です。

アフリカに根ざした生産と研究開発を進める

住友化学は、タンザニア企業との合併による「ベクターヘルスインターナショナル社（VHI社）」を設立し、オリセツト®ネットの現地生産体制の整備を通じて、雇用創出と地域経済の活性化にも貢献しています。マラリア対策に加え、こうした取り組みも評価され、2012年には読売新聞の「読売国際協力賞」、GBCヘルスの「ビジネス・アクション・ヘルス・アワード」を相次いで受賞しました（P62参照）。

さらに、より効率よくマラリア対策を進めるためには、さまざまな手段を組み合わせた総合的な対策が必要との考えから、2012年にVHI社の研究所「アフリカ・テクニカル・リサーチ・センター」を開設し、新製品の早期開発に向けて取り組んでいます。

当社は今後も、オリセツト®ネット事業を通じて、世界の人の健康状態の改善に貢献していきます。



タンザニアの工場におけるオリセツト®ネット縫製の様子
Photograph©M.Hallahan/Sumitomo Chemical



アフリカ・テクニカル・リサーチ・センター